

7 重点推進方策のアクションプランの取組状況

(1) 若手医師の地域循環型キャリア形成システムの構築

～システム構築支援から受入体制の整備に向けて～

ア 地域循環型キャリア形成システムをサポートするコーディネーターの配置や仕組みづくり 【継続実施】

● あきた医師総合支援センターの設置（平成25年4月1日）

大学と地域の病院等を循環しながら、医師としての研鑽を積むシステムの構築（地域循環型キャリア形成システム）など、若手医師等に対して支援することにより、医師不足や地域偏在の解消、そして医師の県内定着を図ることを目的に、平成25年4月に県と大学が共同して、あきた医師総合支援センターを設置しました。

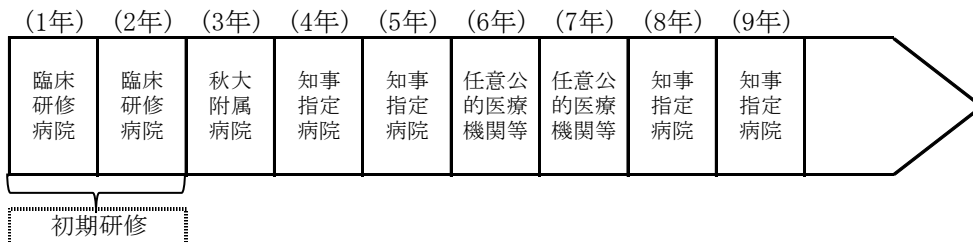
センター長、副センター長と2名の専任医師等をスタッフとし、医師・医学生のスキルアップを目的としたセミナーの開催、医師のキャリア形成や医学生等の修学資金貸与に関する相談に応じるとともに、各種取組に関して様々な媒体を活用した情報発信などを進めています。

また、平成26年度からは、ハワイ大学やタイのマヒドール大学との遠隔医療教育ネットワークを接続し、グローバルに活躍できる医師の養成や、医療教育の双方向の提供を行うなど、新たな取組も行われています。



専門研修プログラム説明会

【地域循環型キャリア形成システムのモデルプラン（例）】



イ 医学生・大学院生・研修医への修学資金の貸与

- ・ 県（地域枠、元気枠、市町村振興枠）や市町村、各病院等の修学資金貸与【継続実施】
- ・ 貸与医学生等のキャリアアップを図るための貸与制度の充実【実施済】

● 県修学資金貸与の状況（平成30年1月現在）

区分	貸与月額	新規	継続	計
医学生（秋大地域枠）	150千円	24人	110人	134人
県内		18人	91人	109人
全国		6人	19人	25人
医学生（元気枠）	200千円	4人	12人	16人
医学生（市町村枠）	150千円	6人	15人	21人
大学院生	300千円	1人	2人	3人
研修医	200千円	0人	0人	0人
計		35人	139人	174人

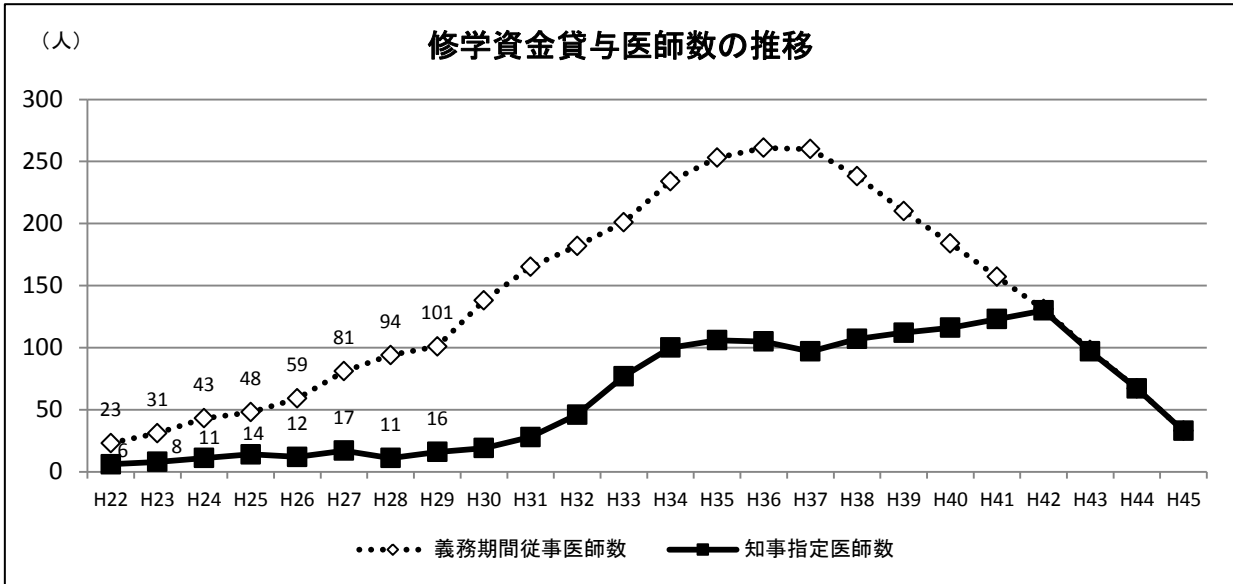
平成30年1月現在で、県の修学資金の貸与を受け、義務期間として県内の医療機関で勤務する医師は101名（うち初期研修医45名）となっています。

また、市町村では、大館市、男鹿市、鹿角市、由利本荘市、仙北市、東成瀬村の6市村で医学生又は医師への修学資金貸与制度を設けており、平成29年度の新規貸与者は、大館市、鹿角市で計2名となっています。

● 修学資金貸与制度の充実

平成25年度から、修学資金の貸与を受けた若手医師のキャリア形成を支援するため、義務期間内に通算して2年を上限に、県外の医療機関等での専門研修を可能にしました。

また、平成27年度からは、秋田大学医学部の地域枠による入学定員が2名増員されたことに伴い、貸与人数を2名分拡充しました。（平成26年度22名→平成27年度24名）



※平成30年以降は推計値

ウ 総合医・不足診療科医師の養成

- ・ 秋田県総合診療・家庭医養成プログラムの推進【継続実施】
- ・ 秋田大学初期臨床研修プログラム増設による養成（総合内科、小児科・産科、麻酔科コースなど）【継続実施】
- ・ 秋田大学講座の改組【新規】

● 秋田県総合診療・家庭医養成プログラムの改訂

県と厚生連は共同して、複数の疾患を横断的に診断・治療することができる総合的な診断能力を有し、各科専門医と連携できる病院総合医や家庭医を養成する総合診療・家庭医養成プログラムを実施しています。

また、平成30年度以降に開始される新たな専門医制度における総合診療専門医を見据え、平成26年度からは、プログラムを「Ver. 2」に改訂しています。



専門研修プログラム説明会

● 総合診療・検査診断学講座の開設と新プログラムの開始

大学では、平成25年7月に、学内の基礎・臨床講座や、プライマリ・ケア・総合診療を研修できる学外の医療機関と連携し、総合診療専門医と臨床検査専門医の育成を目指す「総合診療・検査診断学講座」を設置しました。

同講座では、日本プライマリ・ケア連合学会から認定を受け、平成27年4月から「秋田大学アカデミック家庭医療・総合診療医育成プログラム」を開始しています。

また、秋田大学医学部附属病院の初期臨床研修プログラムが改訂され、平成27年度からは、「自由選択プログラム」、「小児科・産科重点プログラム」のほか、新たに総合診療医を目指す医師向けに「総合診療スーパーローテプログラム」がスタートしています。

● 中通総合診療・家庭医養成プログラム

中通総合病院では、日本プライマリ・ケア連合学会から認定を受け、平成27年4月から「中通総合診療・家庭医養成プログラム」を開始しています。

● 新専門医制度への対応

平成30年度に開始される新専門医制度の総合診療領域では、県内4病院（秋田大学医学部附属病院、秋田厚生医療センター、中通総合病院、市立大森病院）のプログラムが認定されました。

● 秋田大学講座の改組

大学では、内科の研究指導体制の充実強化並びに県内内科診療体制の確保を図るため、循環器内科・呼吸器内科学講座を改組し、循環器内科学講座及び呼吸器内科学講座を独立させることとしました。

エ 地域医療に熱意を持つ医師を育成するための医学教育の推進 【継続実施】

● 総合地域医療推進学講座の継続

県は、地域医療に必要な総合的な臨床能力を持った医師の育成教育と地域医療教育に関する研究を更に進めるため、秋田大学に「総合地域医療推進学講座」（平成25～29年度）を継続設置しました。

同講座では、医学生に対する医学教育を進めるほか、平成29年度は、県内の6高校を訪問し、医師を目指す高校生に対して、医師という職業の使命やその魅力を説明するとともに、秋田大学医学部の先駆的な取組について、紹介しました。



高校訪問セミナー

オ 若手医師の派遣先である地域の病院における指導体制や受入体制の強化

- ・ 指導医の派遣、派遣先病院の受入体制の強化と支援 【継続実施】

● 臨床研修病院への支援等

県は、臨床研修病院や医師の派遣先病院の受入体制を支援するため、研修医の学会参加費や地域医療実習に係る経費を助成するとともに、指導医の負担軽減を図るための医療秘書の配置経費等を支援しています。（平成29年度予算額 65,121千円）

また、医師不足が特に深刻な地域の公的医療機関等に診療応援の医師を派遣し、その派遣医師が研修医等の指導を行うシステムを構築する「循環型医療教育システム学講座」（平成26～30年度）を秋田大学に設置しました。

● 指導医・看護職員・事務職員等の講習会の開催

県と医師会は、大学や医療機関と連携しながら、指導医やプログラム責任者が、質の高い研修プログラムを立案し、研修医を育成する能力を向上させるための講習会を開催するとともに、当該講習会に、研修医をサポートする立場にある医療スタッフ（看護職員・研修医を担当する事務職員）の参加を得て、研修医を取り巻く指導環境の更なる向上を図っています。

また、平成27年度から、臨床研修担当者ミーティングを開催し、臨床研修環境の充実に向けた意見交換を実施しています。



指導医講習会



事務担当者ミーティング

カ 地域の病院勤務に係るインセンティブの創設・拡充と支援

- ・ 給与、勤務手当等の現状把握とその拡充・住環境の整備【継続実施】

● 地域勤務手当・分娩手当等の支給

県は、医療機関と連携して、医師不足地域の医療機関（かづの厚生病院、東成瀬村国民健康保険診療所等）で診療応援を行う非常勤医師に対して地域勤務手当を支給し（平成28年度に廃止）、地域医療の確保を図るほか、国や市町村、医療機関と連携して、分娩手当を支給し、不足する産科医の処遇の改善を図っています。（平成29年度予算額 分娩手当32,000千円）

キ 医師とその家族をサポートし、感謝する運動や仕組みづくり

- ・ 医師や医療スタッフへの感謝のメッセージ募集【継続実施】
- ・ 住民と行政による医師とその家族への声かけ運動【継続実施】

● 住民啓発と住民運動

県は、「夜間救急マナー」や「かかりつけ医の重要性」をテーマとした適正受診に関するテレビCM（平成25年9～10月）やリーフレット10,000部を県内の園児と保護者に配付し、医師の負担軽減に資する住民意識の醸成を図るとともに、医師や医療スタッフへの感謝を伝える受診者やその家族で構成される「おらほの産科小児科を守る会」（能代市）の活動を紹介しています。

同会では、フェイスブック等を活用し、産科や小児科医に感謝の気持ちを表すとともに、小児の休日・夜間診療等に係る医療機関や、妊婦や出産後の母親の勉強会に関する情報等も発信しています。

また、「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」（鹿角市）でも、「お医者さんありがとう手紙」を募集し、同会ホームページ等で紹介するとともに、県内外の道の駅などの施設に「医師を求めるパンフレット」を配置し、行政や病院と連携しながら、医師の募集活動や住民理解の促進を進めています。

平成29年には、「鹿角の産婦人科を守る会」が結成され、かづの厚生病院への産科医師派遣を求める嘆願書を秋田大学に提出したほか、医師の負担軽減に向けて「医療を支える」という考え方を地域に浸透させるための行動を起こしています。

(2) 県外からの研修医の確保と初期臨床研修制度の改善

～初期研修医から後期研修医までの確保・定着に向けて～

ア 病院合同説明会の開催・拡充

- ・ 民間事業者主催の合同説明会（東京・大阪・福岡）【継続実施】
- ・ 北東北三県の連携による合同説明会（青森・岩手）【継続実施】

● 病院合同説明会の開催状況（平成29年）

説明会	会場	開催時期	参加病院数	秋田ブース来場者		病院見学者 ②	②/①	面接医学生	マッチング医学生
				①					
レジナビ福岡	福岡	3月	5	91	(81)	6	6.6%	1	0
岩手県合同説明会	盛岡	3月	5	34	(26)	1	2.9%	1	1
レジナビスプリング	東京	3月	9	178	(124)	5	2.8%	1	1
青森県合同説明会	弘前	6月	6	65	(46)	10	15.4%	4	4
レジナビ大阪	大阪	7月	6	163	(127)	4	2.5%	2	0
レジナビ東京	東京	7月	11	249	(193)	14	5.6%	3	2
岩手県合同説明会	盛岡	10月	3	33	(29)	-	-	-	-

※1 人数は延べ人数。ただし、秋田ブース来場者欄の（ ）内は、実人数。

※2 青森県合同説明会の秋田ブース来場者は、秋田県ブースと大館市立総合病院ブースの合計数

イ 医療人材斡旋事業者と連携した県外医学生集団面談会の拡充

- ・ 首都圏医学生との後期・初期研修医の面談会等【継続実施】

● 首都圏医学生との面談会

県と臨床研修病院は連携して、医療人材斡旋事業者の医学生ネットワークを活用し、首都圏医学生14名と県内の後期・初期研修医5名との集団面談会「医学Wills秋田」を開催し、秋田の初期研修の魅力や、秋田の病院の指導体制、秋田の研修医の暮らしなどを説明しました。

参加した医学生のうち県外医学生1名が、秋田で開催された「医学生のための実践セミナー」（10/28）に参加し、秋田大学医学部の指導医や医学生と交流しています。



医学WILLS秋田

ウ 新たな手法による県外医学生説明会（初期研修医向け）の開催と支援

- ・ 県外大学卒研修医のネットワークを活用した医学生進路相談会【継続実施】
- ・ 県人会、県外からの非常勤応援医師、県内勤務医・開業医、大学サークル等の多様なネットワークを活用した病院説明会【継続実施】

● 医学生グループ進路相談会

県と臨床研修病院は連携して、県内の研修医の卒業大学の後輩等に対し、大学（各学年）、サークル・部活、県人会のメーリングリストを活用し、参加を呼びかけ、指導医・研修医・事務職員による「医学生グループ進路相談会」を開催し、秋田の初期研修の魅力やプログラム内容、指導体制、秋田の暮らしなどを説明しました。

平成29年度は、福島市、金沢市、岡山市、新宿区及び熊本市で開催し、計17名の医学生が参加しました。

これまでの参加者のうち、マッチングにより、9名が採用、4名が「医学生のための実践セミナー」に参加しています。



進路相談会 in 金沢

エ 県外からの後期研修医のスカウト活動の強化

- ・ 秋田大学卒の県外初期研修医や本県出身で県外大学卒の県外初期研修医を対象とした個別訪問と病院説明会【継続実施】

● 後期研修医のスカウト活動

県では、首都圏に在住する秋田大学卒医師等を個別訪問し、秋田へのUターンを勧誘するとともに、その聴取調査や各種名簿等を活用し、秋田に縁のある医師等のデータベースを作成するなどのスカウト活動を進めています。

また、大学と医療機関が連携し、民間事業者が主催する後期研修医募集のための病院合同説明会に参加し、秋田の後期研修の魅力やその内容を説明しました。

オ 県内の初期研修医の定着（後期研修）に向けたセミナー等の開催

- ・ 初期研修医（2年目）を対象とした研修医スキルアップセミナー【実施済】
- ・ 初期研修医（2年目）を対象とした後期研修合同説明会【実施済】

● 専門研修スキルアップセミナー&パワーアップミーティングの開催

平成25年度・26年度に、県と大学（あきた医師総合支援センター）と医療機関は連携し、医学生及び初期研修医（2年目）を対象とした初期・後期研修合同説明会とスキルアップセミナーを開催しました。

平成26年度のスキルアップセミナーでは、シミュレーション教育センターを会場に、専門医・指導医が延べ16セミナーを開講し、専門研修についての理解を深めました。また、パワーアップミーティングでは、大学の各診療科や県内の研修病院が32ブースを設置し、研修プログラムの説明等を行いました。

- レジデントスキルアップキャンプの開催
初期研修医を対象に開催されるレジデントスキルアップキャンプにおいて、新専門医制度に関する最新の情報を提供しました。
- 専門研修プログラム説明会等の開催
初期研修医を対象に新専門研修プログラム説明会を開催し、県内の専門研修プログラム内容を説明しました。（平成29年度参加研修医 67名）
- レジデントフォーラムの開催
あきた医師総合支援センターは、医師会、医療機関と連携し、初期研修医・医学生を対象とした講習会「レジデントフォーラムin AKITA」を開催しました。（平成27年度参加者 74名）

カ 研修病院のPR手法や他県の先進事例をテーマとした研修医確保のための講演会・研修会の開催
【継続実施】

- 東北厚生局による臨床研修制度の見直しについての説明会
臨床研修制度が一部改正され、平成27年度の臨床研修から適用となることを受け、秋田県臨床研修協議会では、平成26年度に東北厚生局の職員を講師として、改正の概要等についての説明会を実施しました。
説明の内容は、研修プログラムにおける基幹型臨床研修病院群のあり方や、募集定員の設定方法の見直しなどです。
- 新専門医制度説明会等の開催
秋田大学では、平成27年度に18の診療科が一堂に会し、県内病院向けに新専門医制度に関する説明会を開催しました。
また、自治医科大学卒業医師のキャリア形成を支援するため、県内自治体病院長が総合診療専門医に関する勉強会を開催しました。
平成28年度は、新専門医制度の導入に当たり、地域医療体制を維持するため、厚生労働大臣及び日本専門医機構に対し、適切な制度構築を求める意見書を提出しました。
平成29年度は、新専門医制度の開始に向けて、県内専門研修プログラム内容を確認し、必要な改善を求める意見書を厚生労働省及び日本専門医機構に提出しました。
- 首都圏の初期研修プログラムにおける地域医療研修の誘致
首都圏の初期臨床研修医の地域医療への理解を深め、本県に後期研修医等呼び込むため、研修プログラムにおける地域医療研修先として、本県の医療機関が、その研修の場を提供しています。
平成26年度は、男鹿みなと市民病院が東京大学医学部附属病院（東京都）から4名、市立角館総合病院が順天堂大学医学部附属順天堂医院等から25名、市立田沢湖病院がけいゆう病院（横浜市）から5名、市立大森病院が東京医科歯科大学医学部附属病院（東京都）から4名の初期研修医を受け入れました。
また、平成27年度は、市立大森病院及び町立羽後病院が、東京慈恵会医科大学附属第三病院（東京都）から研修医を受け入れています。
平成28年度からは、杏林大学医学部附属病院が、市立扇田病院及び市立田沢湖病院を研修先とし、平成29年度からは、自治医科大学附属病院が市立扇田病院を研修先に加えています。

受入病院	派遣元病院	H26	H27	H28	H29	H30
市立扇田病院	杏林大学医学部附属病院	-	-	1	1	未定
	自治医科大学附属病院	-	-	-	0	未定
男鹿みなと市民病院	東京大学医学部附属病院	4	1	4	3	1
	J R 東京総合病院	-	2	2	0	0
市立角館総合病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	5	9	11	2	未定
	順天堂大学医学部附属練馬病院	11	12	11	10	5
	国立国際医療研究センター	9	8	7	5	7
市立田沢湖病院	けいゆう病院	5	3	3	0	未定
	杏林大学医学部附属病院	-	-	1	0	未定
	横浜国立大学市民病院	-	-	-	0	未定
市立大森病院	東京医科歯科大学医学部附属病院	4	2	1	4	未定
	東京慈恵会医科大学附属第三病院	-	4	5	7	5
町立羽後病院	東京慈恵会医科大学附属第三病院	-	6	4	3	3
合計		38	47	50	35	21

キ 病院合同説明会後の来訪医学生等へのアプローチの強化【継続実施】

- ・説明会に来訪した医学生等を対象とした特別合同説明会
- ・説明会に来訪した医学生等への個別訪問、個別病院説明会への開催と支援
- ・情報発信の強化（ホームページ、YouTube（PR動画マップ）、フェイスブック、メールマガジンの配信等）
- ・医学生等の病院見学に要する病院経費の支援

● 情報発信の強化・病院見学への支援

県と医療機関、あきた医師総合支援センターでは、ホームページ（あきたの医療情報「みてたんせ」）やPR動画、メールマガジンによる配信、フェイスブック（あきた医師総合支援センター）、などを活用し県内の臨床研修病院の特徴や病院見学の疑似体験、指導體制や医師への支援策に関する情報発信を強化しています。

また、県では臨床研修病院に対し、県外からの病院見学者（医学部4～6年生）の交通費及び宿泊費の一部を助成するとともに、複数の病院見学を希望する医学生に対し、スケジュール調整や送迎を行うアクセスサービスを実施しています。（平成29年度 補助金予算額 1,275千円）

ク 秋田の医療をPRする熱意あふれる優秀な指導医等の紹介と魅力の伝達

- ・指導医、研修医のプロフィール紹介、コラム、リレートーク、応援メッセージ等【継続実施】

● 研修医や指導医の情報発信

県と医療機関では、広報誌（あきたの地域医療通信・病院広報誌）や病院のホームページを活用して、熱意あふれる指導医や頑張る研修医のメッセージ、コラム、研修の様子などを情報発信しています。

また、あきた医師総合支援センターでは、あきたの医療を担う様々な分野の第一線で活躍する「エキスパートドクター」をホームページで紹介し、各専門診療科の魅力や、先輩医師の海外留学体験、臨床の業務内容、秋田の暮らしなどを紹介し、若手医師や医学生に魅力の伝達を進めています。



あきたの地域医療通信

ケ 創意工夫した研修プログラムや研修環境を整備する病院への支援【実施済】

● 女性医師・若手医師の勤務環境改善事業を実施する病院等への支援

県では、平成26年度まで、市町村や病院が独自に実施する女性医師や若手医師の勤務環境・研修環境を改善し、働きやすい職場づくりに対する取組を支援する「女性医師等勤務環境改善事業」を実施しました。（平成25年度 採択件数4件 補助総額4,574千円、平成26年度 採択件数6件 補助総額7,133千円）

コ 研修医の県内定着に向けた地域との交流や出会いの場の創出【継続実施】

- 研修医の地域との交流（病院祭）・出会いの場の創出
医療機関では、医療従事者と地域住民の交流や、地域に親しまれる病院づくりを目的として秋に「病院祭」を開催しています。
医療施設の見学、医師による予防セミナーの聴講、健康相談に訪れた地域住民との触れ合いやバザー・産直販売などのイベントを通じて、研修医が秋田の風土への理解を深め、秋田への愛着を醸成し、県内定着に繋がるように努めています。
- 研修医の地域との交流（地域住民の健康教室）
秋田大学では、平成25年度から、初期研修プログラムの地域医療の研修先に、地域の診療所を追加しています。
小出診療所（にかほ市）では、大学病院から派遣された研修医が医療スタッフとともに、地域の高齢者を対象に、寸劇を交えた健康教室を開催しました。
研修医が地域住民とのふれあいを通じて、地域に根ざした医療への理解を深めるよう努めています。

(3) 女性医師への更なる支援

～ライフステージに応じた女性医師の支援に向けて～

ア 男女共同参画意識の醸成【継続実施】

- 男女共同参画意識の啓発教育と意識の醸成
県と秋田大学は、男女共同参画意識の醸成に関する医学教育と女性医師支援に関する研究を進めるため、「総合地域医療推進学講座」（寄附講座・平成25～29年度）を設置し、秋田大学医学部で医学生の早期段階から啓発教育を進めています。
また、あきた医師総合支援センターでは、全県の先輩医師と医学生が、将来のライフスタイルやキャリア形成など、様々な悩みを相談できる「Career Cafe」を実施しています。
さらに、医師会では、医学生、研修医、指導医、病院管理者等を対象とした女性医師のキャリア形成や、家庭と仕事の両立支援を目的としたセミナーを開催しています。

イ 女性医師間の多様なネットワークの形成【継続実施】

- 職場の枠を越えた女性医師の情報交換の場づくり
- ホームページへの女性医師リレーエッセイの掲載、若手・女性医師セミナー
- 子育てファミリー交流会等の開催
あきた医師総合支援センターでは、「女性医師・夫婦支援」という観点から職場の枠を超えた女性医師とその家族が集い、男女の家庭の役割分担や育児に関する情報を交換するための「子育てファミリー交流会」を開催しています。
- 女性医師のエッセイの掲載
あきた医師総合支援センターでは、女性医師が、医師としてのキャリアアップや、結婚、出産、子育てとのバランスを考えていくための情報提供の場として、ホームページに県内で活躍する女性医師のエッセイや、秋田大学医学部の蓮沼直子准教授による女性医師支援活動報告レポートを掲載しています。
また、女性医師支援については、総合地域医療推進学講座のフェイスブックでも情報発信しています。

ウ 男女の出会いや交流の場づくり【継続実施】

● 研修医等の出会いと交流の場づくり

医師会では、平成25年度から、新たに医師となった全県の初期研修医が一堂に会し、相互交流を深めるための「新医師歓迎レセプション」を開催しています。（平成29年度 12病院の研修医77名参加）

また、県と臨床研修病院では、研修医が研修期間中に共通して直面する課題を解決する能力を身に付けるとともに、病院の垣根を越えた交流を深め、研修医のネットワークを構築することを支援するための「レジデントスキルアップキャンプ」を開催しています。（平成29年度 12病院75名参加）

あきた医師総合支援センターでは、平成26年度に、秋田県内の独身の若手医師同士の交流を目的とした「名刺交換会」を実施し、県内若手医師11名が参加しました。

エ 子育て中の女性医師への支援【継続実施】

- ・ 女性医師の離職防止・復職やキャリアアップ支援のための相談窓口
- ・ 保育施設等の情報提供、院内保育所や病児・病後児保育所等の設置と支援
- ・ ベビーシッター等の雇用・斡旋、家事のアウトソーシングの普及
- ・ 短時間勤務、ワークシェアリングの促進と支援
- ・ ホームページ等への子育て中の女性医師のエッセイの掲載、情報交換会などの情報発信の強化

● 女性医師のキャリアアップ支援の相談窓口

県と医師会は連携して、女性医師の離職防止・復職支援やキャリアアップ支援のための相談窓口を継続して設置しています。

また、あきた医師総合支援センターにおいても、進路や働き方、子育て、介護、健康問題に関して悩む女性医師と、女性医師を部下に持つ指導医に対する相談を受け付けています。

● あきた医師総合支援センターの女性医師支援

あきた医師総合支援センターでは、子育て中の女性医師等を対象としたセミナーを開催する際、参加者向けの無料託児所で子どもを預かるなどのサポートをしています。

また、県内の院内保育所、学童保育施設（保育園、学童児童クラブ）などの育児支援情報のHPによる紹介や、マタニティ白衣のレンタルも行っています。

● 院内保育所の設置支援と周知

県と国では、院内保育所の施設整備費や運営費を医療機関に補助し、医療機関と連携して、女性医師等の働きやすい職場環境づくりを進めています。（平成29年度予算額 21,292千円 平成28年度実績 8件・90,864千円、平成27年度実績 7件・17,092千円）

オ 女性医師の就労環境の改善【継続実施】

- ・ 女性医師の就労環境改善に取り組む病院への支援
- ・ 病院経営者・管理職員等の意識改革を図るためのセミナー
- ・ 女性医師の働き方、キャリアアップに係る住民理解を深めるための周知啓発

● 女性医師の就労環境改善に取り組む病院への支援

県は、平成26年度まで、女性医師等の離職防止や負担軽減、仕事と家庭の両立、働きやすい職場環境づくりに取り組む病院の事業又は施設・設備等の設置・改修等に要する経費を補助し、その取組を支援しました。（平成25・26年度補助額 10件・11,707千円）

事業採択された病院の主な取組内容は、女性医師専用シャワー室の設置や女性医師更衣室の電子施錠化（由利組合総合病院）、女性医師の育児休暇等に対応するための診療応援に要する代替医師の任用（中通総合病院・本荘第一病院）、女性医師・若手医師の定着等に向けた研修会の開催や手当の支給（秋田赤十字病院・本荘第一病院・由利組合総合病院・にかほ市）、女性医師等の交流の場づくり（秋田赤十字病院）などです。（再掲）

● 病院経営者・管理職員等の意識改革を図るためのセミナーの開催

医師会は、平成27年度に、県、あきた医師総合支援センターと連携して、県内で働くすべての医療人が、生き生きと輝きながら働き暮らせる環境の実現を図るため、医師・看護師等を対象とした「イクボスセミナー」を開催しました。

(4) (1)～(3)を支える取組

ア 医学部進学者を増やすための取組【継続実施】

- ・ 大学と連携した「中・高校訪問セミナー」
- ・ 高校生の医療体験実習
- ・ 秋田大学・岩手医科大学・自治医科大学オープンキャンパス体験支援

● 秋田大学と連携した高校訪問セミナーの開催

秋田大学総合地域医療推進学講座では、将来医師を目指す高校生や保護者を対象に、医師という職業の魅力やその使命、秋田大学医学部のカリキュラムや先駆的な取組を医学教員（医師）が説明する高校訪問セミナーを開催しています。

高校訪問セミナー参加者数

	H25	H26	H27	H28	H29	計
大館鳳鳴	5	30	25	8	8	76
能代	24	28	24	14	21	111
秋田	36	56	43	68	38	241
秋田南	25	15	31		15	86
秋田北	8	16				24
本荘	15	18	29	12	10	84
横手	33	57	29	39	33	191
湯沢				4		4
明桜			1			1
計	146	220	182	145	125	818

● ブラックジャックセミナー等の開催

能代厚生医療センターでは、能代市内の中学生を対象とした外科の模擬手術体験セミナーを昨年に引き続き開催し、内視鏡外科手術シミュレーター等を使用した模擬手術などの体験を通して、医師の職業について理解を深めました。（平成29年度 38名参加）

また、大館市立総合病院では県北地域の高校生を対象として外科手技の体験や実際の医療機器を用いた模擬検査を体験するセミナーを開催しています。

中高校生の医療体験実習実施状況（平成29年度）

名称	実施機関	参加者数
フューチャー Doktor セミナー	大館市立総合病院	38
ブラックジャックセミナー	能代厚生医療センター	29

● 岩手医科大学オープンキャンパス体験ツアー

県、鹿角市及び小坂町が共同で岩手医科大学医学部に開設した地域医療推進学講座（鹿角地域）では、医師を目指す小中高生や保護者を対象に、医育機関や医療機関に対する理解を深めて貰うため、岩手医科大学オープンキャンパス体験ツアーを実施しました。（平成28年度 40名参加）

平成29年度には、かつの厚生病院を会場に、小学生を対象とした手術室見学ツアーが開催されました。

● 医師を志す高校生への体験学習・特別講義等

県と高校、大学、医療機関が連携し、地域医療を支える人材を育成するため、医師を志す高校生を対象にして、医療機関での研修、地域医療体験実習、医師による特別講義、メディカル・セミナーなどを実施しています。

地域を支えるドクター育成事業（県 教育庁・平成29年度）

区分	会場	参加者数			時期
地域医療体験実習	[県北] 大館市立総合病院ほか2病院	1年生	7名	(1校)	10月
	[中央] 秋田厚生医療センターほか2病院	1年生	15名	(3校)	11月
	[県南] 平鹿総合病院ほか2病院	1年生	9名	(1校)	〃
※講話（医師と研修医）、病院見学と実習、医師との交流					
医療体験セミナー	工藤胃腸内科クリニック	2年生	10名	(4校)	10月
※大腸内視鏡手術の見学、大腸内視鏡手術のシミュレーション体験、医師との交流、工藤進英先生の講話					
メディカル・セミナー（2年）	秋田大学医学部	2年生	32名	(9校)	10・11月
※シミュレーション教育センターでの体験（内視鏡手術・聴診等）、長谷川仁志先生の講義、附属病院の見学と説明（少人数制で行うため2回に分けて実施）					
メディカル・セミナー（1年）	秋田大学医学部	1年生	61名	(10校)	12月
※シミュレーション教育センターでの体験、チュートリアル、医師による講義、医学生との交流					
メディカル・セミナー（3年）	総合教育センター・県自治研修所	3年生	16名	(6校)	7月
※予備校講師による講義（英・数・化）					

イ 研修医確保・定着のための取組【継続実施】

- ・ 秋田大学と連携した病院合同説明会の充実
- ・ 医学生スキルアップセミナー、研修医講習会、指導医・看護・事務職員講習会
- ・ 医療シミュレーション教育センターの活用
- ・ 研修医に係る学会参加や実習経費の支援

● 秋田大学病院合同説明会・医学生のための実践セミナー等の開催

研修医の確保と定着に向けて、県と大学、県内の臨床研修病院が一体となって、秋田大学医学生を対象とした病院合同説明会を開催しました。（平成29年9月15日 参加学生85名、平成30年2月2日 参加学生117名）

また、秋田大学医学生と県外医学生を対象に医学講習を実施するとともに、両医学生の相互交流を図り、秋田での初期研修を促す「医学生のための必修・実践セミナー」を開催しました。（平成29年度 参加者 秋田大学生2名・県外医学生11名 計13名）

● 医療シミュレーション教育センターの活用

医療技術の習得や医療従事者の連携強化を目的に、医学生、看護学生、研修医、指導医、看護師などを対象として、医療シミュレーション教育センターを活用した講義や研修会が実施されています。

平成26年度に、シミュレーションを用いた臨床実技と推論について、臨床実習での学習成果を競う「第1回シムリンピック」が和歌山県で開催され、本県から参加した「秋田大学チーム」が全国12チームの激戦を制し、見事優勝しました。

シミュレーション教育センター利用実績

	H24	H25	H26	H27	H28
講義	425	260	281	276	323
実習	158	-	-	-	-
自習	-	178	148	71	83
セミナー	141	116	134	161	205
その他	61	92	196	166	116
計	785	646	759	674	727

● 臨床研修病院に対する支援

県は、指導医の負担軽減を図るために医療秘書を配置したり、研修医を学会や地域医療研修に参加させるなどの研修体制の充実に向けた取組を行う臨床研修病院に対し、助成を行います。

(平成29年度予算額)	医療秘書配置経費	59,400千円
	研修医の学会参加費	3,049千円
	研修医の地域医療研修経費	1,299千円
	県外医学生病院見学受入経費	1,273千円
	計	65,023千円)

ウ 勤務医の負担軽減のための取組【継続実施】

- ・ 医療秘書の配置促進と支援
- ・ 病診連携（開業医による診療応援等）
- ・ 医師の負担軽減のための住民への意識啓発
- ・ 時間内受診の推進、かかりつけ医の普及、定期的な健診受診の推進、健康講座の受講

● 医療秘書等の配置促進の支援

県では、平成22年度から平成27年度まで、病院に勤務する医師の負担軽減を図るため、専ら医師の業務を補助することを職務とする職員（医療秘書等）を新たに採用する経費や、医療秘書の資格取得に要する経費に対し、助成を行いました。

年度	申請施設数	医療秘書新規配置数	資格取得講座受講者	補助金額
22	20 病院	81 名	11 名	50,677 千円
23	15 病院	74 名	11 名	41,416 千円
24	15 病院	84 名	4 名	57,846 千円
25	11 病院	28 名	4 名	15,730 千円
26	14 病院	51 名	10 名	28,177 千円
27	9 病院	24 名	0 名	16,518 千円
計	延べ 84 病院	342 名	40 名	210,364 千円

● 勤務医の負担軽減のための病診療連携

医師会は、地域の中核病院等と連携して、休日・夜間の小児救急医療に係る診療応援や、在宅当番医制度などの病診連携を実施しています。

在宅当番医制度の病診連携実績（平成30年1月）

	二次医療圏名	参加医療機関数
1	大館・鹿角	15
2	北秋田	15
3	能代・山本	35
4	由利本荘・にかほ	13
5	大仙・仙北	3
6	横手	37

出典 県内医師会ホームページ

エ 自治医科大学卒医師の定着のための取組【継続実施】

- ・ 自治医科大学卒医師のネットワークづくり（医学生スキルアップセミナー、研修医講習会、指導医講習会）
- ・ 総合医・専門医資格の取得などのキャリア形成支援
- ・ 自治医科大学卒医師の指導体制の強化と複数派遣等による就労環境改善

● 地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナーの開催

県とあきた医師総合支援センターは、自治医科大学
生、秋田大学医学生及び県内で活躍する自治医科大学卒
医師等を対象として、地域医療に熱意を持った医師を養
成し、かつ、医師・医学生間の相互交流を促し、県内定
着を図ることを目的に、地域に寄り添う医師・医学生
キャリアアップセミナーを開催しています。（平成29年
度参加者 自治医科大生15名、秋田大学生1名、自治医大
卒医師9名、秋田大卒医師3名等 計35名）



キャリアアップセミナー

● 自治医科大学卒の県職員医師の配置とキャリア形成支援

県は、自治医科大学卒の県職員医
師との意見交換会を開催し、医師の
複数派遣による指導体制の強化や就
労環境の改善、キャリア形成支援を
進めています。

また、自治医科大学卒業医師の
キャリア形成を支援するため、平成
27年度には県内自治体病院長が総合
診療専門医に関する勉強会を開催
し、平成28年度には新専門医制度の
開始に向けた対応策を検討する会議
を開催しました。

《派遣状況》

	H28	H29	増減
市立扇田病院	3	2	△ 1
北秋田市民病院	3	3	0
男鹿みなと市民病院	1	1	0
市立角館総合病院	3	3	0
市立田沢湖病院	0	0	0
市立大森病院	3	2	△ 1
町立羽後病院	3	2	△ 1
合計	16	13	△ 3
後期研修	2	2	0
育児休業	1	0	△ 1

● 自治医科大生の夏期実習と義務年限明けの自治医大卒医師への感謝状の授与

県は医療機関と自治医科大学と連携して、本県出身の自治医科大学生が県内の地域医療活動の実態を学び、将来、地域医療に従事する医師として、その役割と責任を自覚することに役立
てるため、7病院（市立扇田病院、市立大森病院等）を実習先として、1年生から5年生を対
象に夏期実習を実施しています。

また、県では、修学資金等の貸与を受けた後に9年間の義務期間を県内の公的医療機関等で
勤務された自治医科大卒医師に対し、地域住民の健康と医療の充実に寄与されたことに対し、
感謝状を授与しています。

オ 医師とその家族を取り巻く地域住民の応援する取組 《再掲》

- ・ 医師とその家族をサポートし、感謝する運動や仕組みづくり ((1)ーキ)
- ・ 研修医の県内定着に向けた地域との交流や出会いの場の創出 ((2)ーコ)
- ・ 男女の出会いや交流の場づくり ((3)ーウ)
- ・ 女性医師の働き方・キャリアアップに係る住民理解を深めるための周知啓発 ((3)ーオ)
- ・ 医師の負担軽減のための住民への意識啓発 ((4)ーウ)
- ・ 時間内受診の推進、かかりつけ医の普及、定期的な健診受診の推進、健康講座の受講 ((4)ーウ)

- (1)ーキ (P. 26)、(2)ーコ (P. 30)、(3)ーウ (P. 31)、(3)ーオ (P. 31)、(4)ーウ (P. 34) に記載のとおり

カ その他の取組 【継続実施】

- ・ ドクターバンクの設置
- ・ 県職員医師の採用、自治医科大学卒医師の派遣
- ・ 分娩手当への補助

● ドクターバンク

県は、秋田県医師無料職業紹介所（ドクターバンク）を設置し、県内の病院又は診療所での
勤務を希望する医師に対して、就職先の斡旋や紹介※を行っています。

ドクターバンク（常勤・非常勤）のほか、1日単位での求人・求職を受け付ける「ドク
ター・ショートサポートバンク」も開設し、病院勤務医の負担軽減を図っています。

※ 平成29年度実績(11月末現在)

ドクターバンク求職者数(7名)、ドクターバンク求人数(291名)、あっせん件数(累計11件)

- 分娩手当への補助
県は、市町村と連携して、分娩手当を支給する医療機関に対し補助し、不足する産科医の処遇の改善を図りました。（平成29年度予算 32,000千円）（再掲）
- 大館市による大館・北秋田地域医療推進学講座の設置
大館市では、地域における医療連携や大学と地域との循環による地域医療を担う人材育成など、大館・北秋田地域の医療の充実を図るため、弘前大学に「大館・北秋田地域医療推進学講座」（平成25～29年度）を設置しました。
- 由利本荘市・にかほ市による寄附講座の設置
由利本荘市とにかほ市は、平成26年4月から東京医科大学に消化器がん研究のための寄附講座（東北由利本荘・にかほ地域消化器がん研究寄附講座）を設置しました。同講座では、由利組合総合病院に医師を派遣し、同病院で診療応援しながら、3カ年計画で消化器がんの早期診断や効率的な治療体制の構築を目指していましたが、寄附講座の責任者が日本大学に転出することに伴い平成27年度で終了し、平成28年度から平成30年度まで日本大学に寄附講座（消化管がん予防・検診・治療学講座）を設置し、研究と診療応援が継続されています。
- 県内高校出身の医学部進学者への情報提供
県では、県内の高校の協力の下、平成26年度から医学部進学者に対するアンケート調査を実施しています。当調査により県内高校出身の医学部在籍者の状況を把握し、「あきたの地域医療通信」や医学生進路相談会の開催案内を送付する等、定期的にコンタクトを取ることであり、卒業後の初期臨床研修を県内病院に誘導します。